平成30年度

事業報告書

日本リザルツ平成31年2月8日作成

05 M A Y

2018 年 05 月 01 日

国際連帯税の勉強

本日、日本リザルツ理事（グローバル連帯税フォーラム代表理事）の田中氏が来てくださり、国際連帯税の歴史や関連するキーワードについて教えてくださいました。国際連帯税という概念が生まれた背景、今日までたどって来た変遷や現状について教わり、これから自分がこの分野に携わってゆくという自覚を新たにしました。また、この勉強会の前に、外務省の担当者の方々と打合せを行いました。

靴を寄付頂いた方々の気持ちをケニアへ

今日は、ボランティアさんたちの指導のもと、靴の段ボールへの梱包作業と個人の寄付者の方々から送付いただいた靴を箱から取り出して、幼児、子ども、大人の3つのサイズ別に整理し袋詰めする作業を行いました。小さな靴、大きな靴、いろんな種類の靴があり、寄付者の方々のお気持ちを直接感じることができました。袋詰めの作業をしながら、この気持ちが現地の人々に早く伝わるといいなあと思いました。

リリアンさんに感謝状＆掃除を習慣に

日本リザルツはケニアのスラム街、カンゲミ地区で結核抑止プロジェクトを実施しております。
カンゲミヘルスセンターを運営しているのは、ケニアのウエストランド州保健省です。
中でも CHV を取り仕切っているリリアンさんには、大変お世話になっています。何とか、感謝の気持ちを伝えたい！写真と絵を組み合わせ、感謝状を作成してみました。文書は、覚えたてのスワヒリ語です。
同い年のリリアンさん。
2 人の双子のお母さんであり、今年 3 人目をご出産されます！

シロー（長坂のあだ名）のスワヒリ語に皆さん興味深々です。

Facebook で写真をアップしたところ、CHV からも沢山反応をいただきました。
感謝の気持ちを伝えることの大切さを改めて知りました。

そして、この日も、アブタさんと一緒にお掃除を行いました。

すっかりぴかぴかに。
カンゲミ地区全体をきれいにするためにも、まずは日々の積み重ねが大事です。
少しずつ、掃除をする習慣を皆さんに伝えていきたいと思います。

ケニア向けの靴

門井さん、藤崎さん、お二人のボランティアさんの陣頭指揮の下、
小平、梅木も懸命にケニアに送る靴の整理をしています
あれだけあったビニール袋の山が、どんどん段ボール箱の山に変っていきます。

2018 年 05 月 02 日

アブタさんの原稿がまたまたケニア全国紙に！

日本リザルツケニア事務所のプロジェクトマネージャーで、ケニアの政治家の卵、アブタさんの原稿がまたまた、ケニア全国紙のデイリーネーション（日本の読売新聞）に掲載されました。

写真付きです！すっかり、デイリーネーションの常連ですね。

Could Corruption Be Our Biggest Health Risk?

アブタさんは、ケニアのヘルスセクターで実際に起こっている汚職を紹介した上で、ヘルスセクターでの汚職は経済への影響ばかりではなく、人々の命や健康にまで悪影響を及ぼすことを訴えています。また、ヘルスセクターが国家予算の中でも大きな割合を持つことや、官民問わず、様々なアクターが関与していることを挙げており、こうした複雑性と多様性が、ヘルスセクターの汚職の解決を困難にしていると指摘しています。アブタさんは「汚職が消えない限り、ユニバーサルヘルスカバレッジ（UHC）は達成されない」と主張しています。現在、日本リザルツはケニアの地方行政の保健制度の仕組みを変えるべく、アドボカシー活動を実施しております。アブタさんが、ケニアの保健行政改革にメスを入れる日もそう遠くないかもしれませんね。

安倍首相の中東パレスチナ訪問

安倍晋三首相は現地時間5月1日午後にパレスチナ自治政府のアッバス議長とラマラ（パレスチナ自治区ヨルダン川西岸）で会談をしました。この会談で安倍首相は新たに1，000万ドル(約11億円)の食糧援助を実施するなどでパレスチナ支援を継続する姿勢を強調しました。

またこれに先立ち河野外相は4月29日に中東ヨルダンで日本独自のパレスチナ和平構想「平和と繁栄の回廊」に関するイスラエル・パレスチナ・ヨルダンとの第6回閣僚級会合を開催、パレスチナの経済的自立を促すため、物流支援の強化を明記した議長声明が発表されました。（毎日新聞5月1日）

（「平和と繁栄の回廊」構想は、日本、パレスチナ、イスラエル、ヨルダンの4者による地域協力によりヨルダン渓谷の社会経済開発を進め、パレスチナの経済的自立を促す中長期的取組です。2006年に、小泉純一郎総理（当時）がパレスチナを訪問した際に提唱して以来、日本独自のイニシアティブとして推進を続けています。）

2018 年 05 月 03 日

カンゲミ結核検査所　朝の清掃風景

日本リザルツはケニアのスラム街、カンゲミ地区で結核抑止プロジェクトを実施しています。
現在、より良い医療サービスを実施するために結核検査所を建設しています。朝の就業前の清掃風景です。

建設現場では、なんと女性も、資材運び・施工の準備・整理整頓をするなどの、仕事に従事しています。

ケニア現地スタッフ・カルヴィン、警察官のロティッチも一緒に朝の清掃をします。

現場の外ですが、車両の搬入口も掃除をしています。

日本リザルツケニアオフィスのスタッフである、マーガレット・シコも結核患者さんの自宅訪問活動前に、一緒に手伝いをしてくれました。

今後は、結核検査所の周辺の掃除も行っていきたいと思います。

2018 年 05 月 05 日

5月5日春日部の大凧あげ祭り

３月１８日に日本リザルツは、「世界凧揚げ交流会＠春日部」を開催しました。その時のご縁もあり、５月５日（土）は、スタッフが春日部市開催の大凧祭りに参加しました。その様子を写真一杯でご報告致します。

春日部市は、毎年、５月の３日と５日に、その年に初節句を迎える子どもたちの健康と幸福な成長を願って、江戸川河川敷で大凧祭りを開催しています。残念ながら、今年は５月３日が悪天候で中止になってしまったのですが、本日５日は素晴らしい青空が広がり、無事開催することができました。

参加者は１０万人を超えたということで、物凄い人でした。大凧は縦１５メートル、横１１メートル、重さ８００キロ。動かすには１００人以上の人手が必要です。

運ぶのもこんな感じで大変そうです。

リザルツのメンバー、白石と小平も運搬のお手伝いをしました。真ん中の二人です。

さぁ、いよいよ凧あげです。職人さんが凧を引っ張り、遂に大凧が舞い上がりました。

過去３年は風がなく上がらなかったそうですが、今日は良い風で大凧は気持ちよさそうに空を舞っていました!!迫力満点でした。初めての大凧あげ、とっても楽しい、気持ちの良い経験でした。

2018 年 05 月 06 日

EU 長期財政計画での FTT と 10 カ国 FTT、日本での国際連帯税

EU（欧州連合）では再び金融取引税（FTT）の議論が活発になってきたようです。この議論は二つの方面で行われています。ひとつは英国離脱後に備えての EU 財政に関しての議論、もうひとつは EU10 カ国での先行導入問題に関しての議論です。このような欧州情勢と日本での国際連帯税について報告します。

１、欧州連合（EU）での長期財政計画案議論

前者につき、2021 年からはじまる７年間の次期長期財政（多年次財政枠組み）に関して、欧州議会はすでに１月の段階で「自主財源による欧州連合システム改革（on reform of the European Union's system of own resources）」という報告書を出しています[1]。同報告書では、VAT 制度改革、共通連結法人税課税ベース（CCCTB）導入等の法人税改正、欧州レベルでの金融取引税、デジタル分野の企業に対する特別課税、環境税など、EU の新たな税収源を提案しています。

また、草案を提出する欧州委員会も、実は昨年６月の段階で、独自財源のオプションのひとつとして金融取引税を挙げていました[2]。ところが、去る５月２日に「未来のための欧州財政」[3]と題して欧州委員会草案が出されましたが、そこには金融取引税が入っていません。上記 CCCTB と環境税（排出権取引への課税）が入っており、加えて非再生プラスチック包装廃棄物への課税が入っています[4]。

どうして金融取引税が抜けたのかは提案内容を読み込まないとなりません。またデジタル分野の企業に対する特別課税についても。ともあれ、この 2021 年からの長期財源については 2019 年いっぱい議論されていくことになりますので、欧州議会の議論との関係など事態の推移を見守っていきたいと思います。

[1]【EU Reporter】#Long-Term Budget: MEPs want EU to have more own resources

[2]【commission】EU 財務の将来に関するリサーチ・ペーパー（2017 年 6 月 28 日）

[3]【commission】EU Budget for the future

[4]【commission】MODERNISING THE EU BUDGET'S REVENUE SIDE

2、EU10 カ国 FTT 議論　今月末から再交渉

後者（EU10 カ国 FTT）については、2016 年 10 月以降交渉が止まっていましたが、Bloomberg Tax の報道によれば今月末から交渉を再開するようです。

問題は、「新ドイツ連立政権が FTT への強いコミットメントがあるかどうか、あれば確実に前進できる」と見られており、とりわけ新財務相となったオーラフ・ショルツ氏の手腕によるところが大きいようです。が、同報道ではショルツ氏は SPD（社会民主党）でも保守的でありあまり熱心ではないようだ、と研究者の話を紹介しています[5]。

そのショルツ氏ですが、財務相就任直後、次のように FTT に関する意欲を述べていました。「欧州での金融取引税キャンペーンを再び行うが、これは（そもそも）過去の大連立政権の合意であった。が、一部のユーロ圏の意欲の欠如とドイツ財務相（ショイブレ前財務相のこと）のおかげで失敗してしまった」、と[6]。南ドイツ新聞報道の通りであれば、政治信条が保守的であっても FTT には前向きであるようにも思えますが、いかがなものでしょうか。

[5]【Bloomberg】EU to Restart Financial Transactions Tax Negotiations

[6]【南ドイツ新聞】Scholz: Deutschland muss mehr zahlen

3、＜FTT は SDGs 財源のための有力なツールに＞フランスの事例を見る

以上のように、ドイツで新連立政権が誕生してから欧州でようやく FTT の議論が活発化しそうな事態になってきました。現在、グローバル連帯税フォーラム（以下、フォーラムと略）で欧州 FTT に関するセミナー等を行ってくれている津田久美子氏（北海道大学大学院）が調査研究でベルギーに滞在していますので、ブリュッセルやドイツ、フランスなどの最新情報について、帰国され次第報告していただく予定になっています。

ところで、フォーラムが FTT に拘るのは、その税収が世界の貧困や気候変動対策など地球規模課題解決のための資金として、今日的に言えば持続可能な開発目標（SDGs）の達成のための資金として役立つからです。

昨年末フランスで気候変動サミットが開催されましたが、開催に先立ち、フランスのルメール財務相など同国の閣僚4人が「金融取引税を導入すれば、2020 年までに年間最大 50 億ユーロ（59億ドル＝6300 億円）を調達でき、それを気候変動対策の原資に充てることができる」として FTT 推進を訴えました[7]。

そのフランスですが、航空券連帯税に続いて、2012 年独自の FTT を導入しました。具体的には、「時価総額 10 億ユーロ以上の国内株式の購入に 0.2%を課税する」というものですが、昨年 1 月より 0.3%に引き上げられました（本年よりデイトレーディングにまで拡大する予定でしたが断念しました）。2017 年の税収は 14 億ユーロ（1800 億円）で、その半分ほどがアフリカ支援等地球規模課題に使われているようです。

[7]【ロイター】フランス、欧州の金融取引税導入を推進へ

4、日本では国際連帯税を　航空券連帯税や独自 FTT などの実施が可能

日本では、2009 年より外務省が税制改正要望として国際連帯税の新設を要望してきました。2012 年 8 月にはいわゆる「税制抜本改革法」[8]が国会で成立し、その中で「…国際連帯税について国際的な取組の進展状況を踏まえつつ、検討すること」ということが法律として決められました（第 7 条第 7 号）。

しかし、これ以降政府はまったく検討を怠たり、毎年度の税制改正大綱から国際連帯税に関する文言を盛り込んでいません。そして前年度には、国民的議論はもとより自民党内ですら十分な議論もなく、大急ぎで国際観光旅客税（出国税、以下旅客税と略）を国会で成立させてしまいました（十分な議論を行い、また税収を連帯税的要素に拠出するものであれば出国税に反対するものではないが）。

当然国際連帯税のうちの航空券連帯税は旅客税と同じく国際線の飛行機が出国するときに課すものですから、旅客税が導入されてしまえば、さらにその上に連帯税を加えるというのは厳しいと言えるでしょう。しかし、お隣韓国では観光のための出国税（出国納付金）も連帯税（国際疾病撲滅基金）も徴収していますし、主要国の空港税・料金はおしなべて高いので、旅客税 1000 円を加えても日本の空港税・料金はまだまだ安いのです。従って、旅客税プラス連帯税という選択肢は十分ありえると言えます。

また、連帯税は経済のグローバル化により国境を越えて活動している経済主体に課税するという性格上、航空券（運賃）への課税だけではなく、航空や船舶の輸送（燃料）への課税についても国際的に議論されており、上記のように金融取引への課税もあります。まだ検討の段階ですが、当然ながら電子商取引への課税も考えることができます。

このような中で、去る 4 月 25 日、河野太郎外務大臣がシリア支援国会合で「国際的な税」の必要性を訴えました[9]。が、その必要な税につき直ちに実現するというのではなく、「いつかの時点で国際社会は作り上げる必要があります」というもの。確かに国際協定で決められるような（共通）税制はいまだ実現していませんが、その萌芽は至る所にあります。航空券税は 14 カ国で実施され、欧州 FTT は 10 カ国で実施方法を交渉しています。何よりも気候変動対策のとくに適応資金については、まだ実現されていませんが、共通税制の可能性を探ってきた経緯があります（炭素税や FTT）。またフランスは独自 FTT を実施し税収の相当部分を地球規模課題に使用しています。

日本でも（当面一国でも）航空券税や独自 FTT を実施することは可能ですので、未来の国際社会に期待するのではなく、河野外務大臣は国際的な税に関しての国際的イニシアティブを発揮していただきたいものです。

[8]正式名：「社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うための消費税法等の一部を改正する等の法律」

【外務省】シリア及び地域の支援に関するブリュッセル会合　河野外務大臣ステートメント

第 51 回アジア開発銀行（ADB）年次総会における麻生副総理兼財務大臣総務演説

5 月 3 日から 6 日まで、フィリピンのマニラで、第 51 回アジア開発銀行（ADB）年次総会が開催されました。5 日に行われた麻生副総理兼財務大臣総務演説のうち、保健部分を抜粋し、下記に紹介いたします。
なお、保健については、「2. アジア・太平洋地域の発展と日本・ADB の役割」の中の「総論、インフラ、防災、保健、債務持続性」の 4 項目となっています。

記

2. アジア・太平洋地域の発展と日本・ADB の役割

＜保健＞

質の高い医療や保健サービスの確保は、経済的安定と国の発展の礎であり、日本は、途上国におけるユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の推進を重視しています。この観点から、昨年 12 月、ADB からもハイレベルの参加者を得て「UHC フォーラム」を東京で開催し、持続可能な保健財政システム確立のために財務大臣の果たす役割の重要性を確認しました。世界に先んじて UHC を実現した日本は、超高齢社会を迎える中で培った知見も活用しつつ、今後とも国際的な議論をリードしてまいります。

また、UHC に加え、公衆衛生危機への対応も極めて重要であり、アジア開発基金第 12 次増資（ADF12）において設けられた地域保健枠が着実に活用されていることを歓迎します。昨年の横浜総会の際に、ヘルス・セキュリティと UHC の推進に向けて、ADB と JICA の間で協力覚書（MOU）が締結されました。この MOU に基づいてラオスやモンゴル等の国々で具体的な取組みが開始されていることを歓迎するとともに、これも契機に、ADB が保健分野での関与を強化していくことを期待します。

春日部大凧祭り（スポンサー凧）

今年の春日部の大凧祭りは、5 月 5 日の 1 日のみの開催となりました。このため、大凧や地元の凧を優先し、スポンサー凧や結核凧は、空に舞い上がる代わりに展示されることになりました。大凧を見学に来られた観客の皆様は、思い思いのデザインの凧を近くで見入っておられました。来年は、大凧と並んで空高くあがることを祈っています。

Beautiful Mother Park 2018 @ YOKOHAMA

日本リザルツの浅野茂隆理事長は、昨日 5 日(土)に、みなとみらい　日本丸メモリアルパークで開催された「Beautiful Mother Park 2018 @ YOKOHAMA」のオープニングセレモニーでのテープカットに参加されました。

浅野理事長は左から 3 人目

このイベントでは「スクスク子育てプロジェクト」として、「スナノミ症からアフリカの子どもたちを救え！」のタイトルのもと、日本リザルツが行っている中古靴（スニーカー）をアフリカに届ける運動を応援してくださっている公明党さんのブースもあります。ブースに立ち寄ると、靴を手にした親子連れの方たちにお会いしました。

又、テープカットには公明党の佐々木さやか議員も参加されており、浅野理事長ともお話しをされていました。

皆様に支えられて運動靴は続々と集まっており、リザルツ事務所には箱詰めされた運動靴が山のようになっています。一日でも早くアフリカの子どもたちに届けたいです！

森元様にお会いしてきました！

日本リザルツが力を入れて取り組んでいるのが、栄養改善です。
先日、ケニアで食料安全保障について取り組む森元泰行さんについて、公明新聞の連載で取り上げさせていただきました。

農産物の価値に気付いて
地産地消を進める日本人

森元さんがケニアに戻られたということで、アブタさんと森元さんのオフィスを訪問しました。

施設はナイロビ郊外にあり、豊かな自然に囲まれています。国連機関内にあるため、セキュリティも万全。立派な会議室もあります。

森元さんにお会いするのが初めてだったアブタさん。
日本の知見を活かし、草の根で活動する森元さんに大変感銘を受けていました。
ケニアの政治家の卵アブタさん。今回の面会をヒントに、是非、ケニアの栄養政策改善について、すてきな政策提言をしていただけることを楽しみにしています。

きれいなカンゲミ地区を目指して

日本リザルツはケニア・ナイロビのスラム街、カンゲミ地区で結核抑止プロジェクトを実施しています。ケニアには、定期清掃活動の習慣がありません。カンゲミ地区でも至るところにごみの山が見受けられます。この状況を何とかしたいということで、日本リザルツケニア事務所は職員一丸となって、清掃活動を毎日実施しております。ヒルダさん、アブタさんとは、カンゲミヘルスセンターの清掃活動を実施しています。

CHV リーダーのジョイスさんもお手伝いしてくださいました。

ケニアには「ごみをごみ箱に捨てる」という習慣がありません。周囲のごみを全て拾い、アブタさんと一緒に、「ポイ捨て禁止」の張り紙も掲示しました。看護師のマギーさんと栄養士のシコさんは、フィールドワーク中にコミュニティの清掃活動をしてくださっています。

こちらは日本リザルツが CHV ミーティングなどで利用する教会です。
ごみがあちらこちらに散乱していましたが、きれいになりました。

道路の清掃も行います。こうした地道な活動が、徐々に広がり、地域のみなさんに清掃活動の大切さを知ってもらえるよう、困難に負けず、日本リザルツケニア事務所はこの活動を続けていきたいと思います。

2018 年 05 月 07 日

初めての結核凧と大凧あげ祭り

去る 5 月 5 日（土）に春日部市で開催された大凧あげ祭りに行ってきました。大凧あげ祭りに参加するのも、結核凧を目にするのも初めてのことで期待していましたが、残念ながら今回は結核凧があがるところを見ることはできませんでした。ただ、見たこともないような大きな凧があがる様子を目の当たりにして、空高く舞う凧に思いを託すというのは素敵なことだと感じ、結核凧が舞うところを早く見たいと思いました。

IT WAS NICE MEETING MR. MORIMOTO

Over last week, we had various engagements with our staff in Kangemi, as well as the staff of the Westlands Sub County.

Yuko tried her best to encourage Lilian to cooperate with us, as well as other staff who work at the facility.

We had clean ups around the facility for the whole week, and the facility was looking much cleaner than previously. We hope they take it up by themselves to handle the issue of cleaning by themselves.

We also had a visit to KANCO to catch up on their preparations for the GGG+ Forum.

On Friday, I was so happy to talk to Mr. Morimoto. It was such a nice meeting, and he promised to join in the GGG+ Forum.

He also showed us around in the ICRAF centre for the facilities which we may be using, if we choose the venue. It was such a busy but good week.

2018 年 05 月 09 日

グラミン日本準備機構　春のワークショップ

貧困者に低利・無担保で少額の融資を行い、自立の支援をするマイクロファイナンス機関として 2018 年中の事業開始に向けて準備を進めているグラミン日本準備機構より、今年 4 月から各地で開催している「グラミン日本立上げに向けた全国キャンペーン～春のワークショップ」についての情報提供がありました。
グラミン日本準備機構の菅正広理事長とは、彼が世界銀行日本代表理事をされていた折に、朝日新聞の「私の視点」に掲載された日本リザルツの鰐部による投稿を読まれたことがきっかけとなって交流が芽生え、今に至っています。

リザルツインターン OB の春日さんの寄稿が新聞に

学生時代、日本リザルツでインターンをしていた春日桃子さんの寄稿が、聖教新聞に掲載されました。ケニアでの活動や日本リザルツでの経験も紹介して下さっています。

卒業生の声

4 月から社会人として新たな一歩を踏み始めた春日さん。日本リザルツでの経験を活かし、バリバリのキャリアウーマンとして、世界に羽ばたいてくれることを日本リザルツスタッフ一同楽しみにしています！

2018 年 05 月 10 日

アブタさんの記事が Standard に掲載

日本リザルツケニア事務所のプロジェクトマネージャーで、ケニアの政治家の卵、アブタさんの記事が、ケニアの朝日新聞である Standard に掲載されました！

NUTRITION: Cheap food inaccessibility still a challenge to urban poor

すっかり、新聞の論説欄の常連です。アブタさんは、スラム街のような都市の貧困層が暮らす地域には、栄養価の高い食材が流通していないことを取り上げた上で、地方の農家が栽培している地域農産物（野菜や果

物）に着目し、こうした食材を流通させることが都市部の栄養改善につながると指摘しています。また、栄養改善に向けて、ケニア政府自身も施策を立案、行う必要があると提案しています。具体的には、清潔な水へのアクセス、農村地域から都市部への輸送手段の確保、消費者への栄養改善の知識啓発活動、学校での栄養に関する教育プログラムの実施と学校給食の運営などを取り上げています。アブタさんの記事がきっかけで、ケニアにおける栄養改善の気運が高まるといいですね。

自転車メンテナンス

日本リザルツはケニア・ナイロビのスラム街、カンゲミ地区で結核抑止プロジェクトを実施しています。現地ボランティアメンバー（CHV）の方々に貸出をしている自転車のメンテナンスを行いました。

メンテナンスは、カンゲミ地区の自転車修理屋さんにして貰いました。

依頼した自転車屋さんは小さなお店ですが、必要な各種パーツ（部品）も整理されており、丁寧に修理をして頂いています。

ペダルが壊れてしまっているものや、簡単なタイヤの空気入れ等は一緒に手伝いをして、少しでも早く皆さんのメンテナンスが終了出来る様に、お手伝いさせて頂きました。

結核で亡くなる患者さんをゼロにするために、現地ボランティアメンバーがスムーズに、活動が出来る様にサポートしたいと思います。

国連人道特使との意見交換会に行ってきました。

来日中の国連事務総長人道担当特使（Humanitarian Envoy)であるムライヒ特使（Al-Meraikhi）と人道支援に関わるNGOとの懇談・意見交換会が、5 月 9 日、ジャパンプラットフォームで開催されました。カタール出身のムライヒ特使は、特に中東における紛争の人道支援を担当されていることから、中東における日本の NGO の活動を知りたいとのことでした。また、それだけに関わらず、広く日本の NGO の活動、課題等についても興味があるとのことで、今回の意見交換会が開催されました。当日はムライヒ特使付きアドバイザーの Ms. Margaret Zimmerman と国連人道問題調整事務所（OCHA）神戸事務所の渡部正樹所長も参加してくださいました。日本側からはジャパンプラットフォーム、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、シャンティ国際ボランティア会、難民を助ける会、アドラ・Japan、パレスチナ子どものキャンペーン、そして日本リザルツが参加しました。

ディスカッションは主に、それぞれの現地で活動をする NGO が活動費を得ることの難しさや、国連の資金問題をどう解決するかでした。日本リザルツからはパレスチナの UNRWA のキャンペーン事務局としての活動を紹介しました。今回は少人数の会議だったため、皆さん活発な議論ができました。他の NGO の活動も知ることができ、非常に勉強になりました。

ケニア向けの靴

本日もボランティアの門井さん、藤崎さん、インターンの白石さんのおかげで靴がすっかり箱詰めされました。3 人がケニアに送る準備を整えてくれました。感謝です。

発送前の計量をしています。

2018 年 05 月 11 日

「効果的な国連総会結核ハイレベル会合に向けて」セミナー

5 月 10 日、国立国際医療研究センターグローバルヘルス政策研究センター（iGHP）と東京大学国際保健政策学教室（GHP）が共催して「効果的な国連総会結核ハイレベル会合に向けて」と題するセミナーが開催されました。これは、本年 9 月 26 日の国連結核ハイレベル会合（各国元首が参加）に向けて関係省庁、NGO 他団体、企業、アカデミアが意見交換をするために、開かれました。

はじめに、外務省からこれまでの背景と今後の動きについて報告がありました。この中では、6 月 4 日には国連事務総長による市民団体へのヒアリングが開催されるので参加する人は登録をしてほしいとの依頼があり

ました。
次に結核対策に関わるストップ結核パートナーシップ日本、国境なき医師団、大塚製薬株式会社、GHIT Fund の多様なセクターから、結核の現状について、情報提供が行われました。
その後、参加者間で活発な討議が行われ、企業からは薬の世界展開をする際の各国の薬事承認の障壁を崩す必要性があること、また NGO からは、2030 年を目標としている SDGs の中に UHC（ユニバーサルヘルスカバレッジ）が記載されているが、結核の、特に子供、外国人、難民など脆弱な人々の、位置づけをはっきりさせるべきである他、様々な意見がでました。
国連のハイレベル会合が結核を議題に取り上げるのは初のことで、各国元首がどのような意見表明をするのかが、期待されます。今後、9 月 26 日の国連結核ハイレベル会合までの動きに注目をしたいと思います。

ケニア向け靴の寄付

本日ケニアの子供達への靴を届けてくれた笠原さんです。

先日行われた横浜のイベントで佐々木さやか先生等が設けた公明党のブースに行けなかったので、リザルツのオフィスに靴を届けてくださいました。どうもありがとうございました。

TICAD7支援チャリティーコンサート

次回のアフリカ開発会議（TICAD7）は 2019 年に横浜市で開催されることが決定しています。日本リザルツでは開催に合わせて「TICAD7支援チャリティーコンサート」を計画しています。昨日、コンサートについて説明をするため日本・アフリカ連合（AU）友好議員連盟会長を訪ねました。会長からは、ご協力いただけるという旨のご回答をいただきました。また、大きなイベントを催すのは簡単ではないが、やる以上は日本の人たちにアフリカで今起きていることや TICAD について知ってもらうため、多くの方に来ていただけるコンサートにして欲しいという趣旨のお言葉もいただきました。このような催しに主となって携わるのは初めてのことですが、大成功に導けるよう頑張りたいと思います。

2018 年 05 月 13 日

各種投稿の英訳が完成

日本リザルツケニア事務所の各種投稿を、東京オフィスの皆様が英語に翻訳してくださいました。

懐かしいデニス・アウォリケニアトヨタ CEO の寄稿もあります。
日本リザルツケニアスタッフ一同で、現在、カンゲミ地区のボランティアの方、住民の方、保健省の方にこれを配布しております。保健省の方には手書きの感謝状もお渡ししました。

英訳を配布したことで、皆さん記事を嬉しそうに読んでくださっていました。
ご協力いただいた東京オフィスの皆さん、本当に有難うございました！

2018 年 05 月 16 日

WE APPRECIATE THE EFFORTS FROM ALL PEOPLE OF GOODWILL

Whenever we work, there are people who will be of very great importance. They support when you really need them to do so. I am grateful to the CHVs that work with us and despite everything, they continue with their activities undeterred. We commend their efforts to ensure no more TB patients die in the quest to eradicate TB in Kenya slums. Indeed, cleanings are done by some CHVs, which signals a likelihood of a number of the community people taking it upon themselves to clean their neighborhoods. When this shall take root, indeed, the chances of getting sick will also diminish a great deal. Through other efforts as well, we will be happy to receive the assistance of anti-jigger campaigners, Ahadi Trust, in the sending-shoes mission. We hope the problem will not be as problematic as previously.
As we forge ahead, we believe that this is going to be a good way to handle most of our challenges, through collaboration with helpful partners. We believe we will achieve all these in due course. We shall always be persistent, and optimistic.

ケニア事務所のみなさまよろしくお願いいたします

日本は、最近ますます暑くなってきましたが、ケニア事務所のみなさまはいかがお過ごしでしょうか。これから、ケニアのプロジェクトに参加させていただきます、山中です。よろしくお願いいたします。

2018 年 05 月 17 日

ガザで生きている 100 万人の子どもたちを支援してください!!

報道されておりますように、パレスチナ自治区ガザ地区のイスラエルとの境界付近では、1948 年のイスラエル建国に伴いパレスチナ人 70 万人以上が難民となった出来事「ナクバ（アラビア語で「大災厄」の意味）」の 70 年周年を迎え、連日抗議デモが行われています。14 日にはイスラエル軍との衝突により 55 人が死亡し、2700 人が負傷するという惨事が起きています。日本リザルツは国連パレスチナ難民救済事業機関のキャンペーン事務局として活動しており、本日は国会議員の先生方にパレスチナの状況をご報告しました。一人でも多くの国会議員の先生のご支援を戴きたいと願っております。

最近の栄養問題について（雑感）

栄養改善をめぐっては、グローバルレベル、国内レベルで議論が活発化しています。1 月末の議連合同による栄養シンポジウムでは、2020 年の栄養サミットに向けたキックオフとなりました。2019 年には横浜で TICAD も予定されます。こうした中で、リザルツの栄養グループでも活発に議論を行っています。筆者も海外スタッフと慣れない英語で電話会議に参加しています。4月以降、栄養、食料、衛生等に関わる多様な専門家の方々が事務所に頻繁に見え、栄養の問題をご議論いただくことが多くなってきています。また、「世界栄養報告（Global Nutrition Report）」も 2017 年版が公表されています。近年の世界の栄養問題の流れの把握と評価を緊急に行う時期に来ています。こうしたスケールの大きな話題とは別に、通勤列車の中で、ビスケットの新商品の PR を目にしました。キーワードは、「新登場：糖質 50%オフ、食物繊維たっぷり、豆乳使用、小麦胚芽使

用」ということです。原材料に配慮した栄養の視点が、企業活動に色濃く反映されていることを改めて感じた次第です。2020 年に向けて、グローバル、国内レベル、双方の動きを注意深く見ていきたいと思います。

アドボカシーペーパー作成(新人研修)

東京本部における山中の研修の一環として、ケニアで行っている結核プロジェクトにおいて意識改革を行い、ケニアの人々が自分達で行政運営を行うようにするために、何をすべきであるかを訴えるアドボカシーペーパーの作成に取り組みました。自分自身アドボカシーペーパー作成の経験が浅い中、予備知識や関心のない人でも一目見て訴えたい内容を理解してもらえるよう工夫すべきであること、ひいては何かを変えるための行動を起こす気になってもらうことを目指すべきであると山中に話しながら、半分は自分自身に向けて言っていました。効果的なアドボカシーペーパーを作成できるよう山中と共に研鑽に励みます。

スナノミ症が国会質問に登場！

5月14日の参議院予算委員会で、スナノミ症が国会質問に登場しました。質問されたのは、公明党の参議院議員・秋野公造先生です。

まず秋野先生は、2016 年 12 月エスンバ村に視察に行かれたことを踏まえ、公明党が党をあげて運動靴の回収を行うなど、日本リザルツをサポートして下さっているというお話を紹介して下さいました。その上で、秋野先生は、スナノミ症の全容解明に向けた研究と日本の更なる協力を要請されていました。これに対し、河野太郎外務大臣からは、エスンバの小学校に対し、草の根・人間の安全保障無償資金協力によって、土の床だった学校をコンクリートで舗装するなどの取り組みが行われていることが紹介されました。

新入職者

山中は紛争解決の分野で働きたいと、当初らぽーる事業へ応募してきました。国際紛争を扱っている部門と勘違いしていたのですが、念の為履歴書を見ると彼がインターンとしてスリランカ、ネパール等で働いた経験があったので、ケニア事業向けの人材として白須代表も交えスカイプ面接を行ったところ、誠実で内容の伴った人柄が買われ採用された人間です。東京本部で 3 日間の研修を終え昨日ケニアに出発しました。今後、彼の紛争解決の方法が、どの様な形でケニア事業に生かされるか期待されます。

カフェ・リトリートでの夕食会

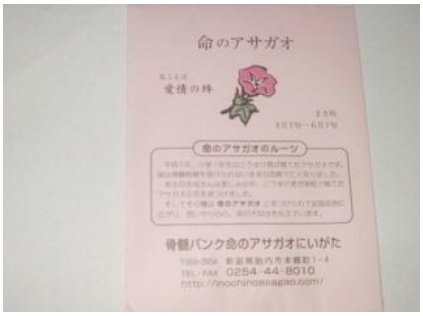
各省庁、団体、保健医療、栄養問題に携わっておられる方々と当団体理事の金子ご夫妻も交えて 5 月 14 日にカフェ・リトリートで夕食会が催されました。皆さんそれぞれの分野で活躍されておいでの方々ばかりで、

ご専門のことを歓談されながら、グルジアワインを楽しまれました。

在ケニア日本国大使館訪問

5 月 16 日（火）、在ケニア日本国大使館を訪問し、片山芳宏公使参事官にお会いしてきました。片山公使参事官のご趣味は家庭菜園です。以前、長坂がお土産に「命のアサガオ」の種をお渡ししたところ、それを育ててくださっているということで、「ケニアでも、4 つ芽が出ましたよ」というご報告をいただきました。

こんなきれいな花が咲きます！「命のアサガオ」が、ケニアで花開くのを楽しみにしています。



2018 年 05 月 18 日

結核患者さん訪問活動

日本リザルツはケニア・ナイロビのスラム街、カンゲミ地区で結核抑止プロジェクトを実施しています。日本リザルツでは、カンゲミ地区の 102 名の結核患者さん宅へ家庭訪問をして、結核患者さんの容体や、薬の飲み忘れが無い様に聞き取り・相談等を行っています。残念ながら昨年 3 名の患者さんが亡くなってしまいました。102 人の中の連絡が取れた患者さんのうち、最後の 2 名の患者さんの家庭訪問に伺いました。

ケニアスタッフ、カルビン（フィールドアシスタント）・マーガレット（看護婦）・シコ（栄養士）ロティッチ（私服警察）の 5 名で伺いました。
お話を伺い、2 名とも無事に結核の治療は完了したとの事でした。
無事に家庭訪問を終了してきました。

今年は、結核患者さんが 1 人でも亡くならないよう、日本リザルツケニア事務所は一生懸命に患者訪問の活動を行ってきました。

訪問の実施のお陰もあり、現在のところ、結核で亡くなっている患者さんは 1 人も出ていません。今後も結核で亡くなる患者ゼロを目指して、活動に励んでいきます。

2018 年 05 月 20 日

カンゲミ地区をきれいに

日本リザルツは、4 月末からカンゲミ地区をきれいな街にすべく、毎日清掃活動を行っています。

CHV リーダーのナンシーさんは、毎週 CHV を集めてお掃除を行ってくれています。この日は Kibagare 地区のゴミ拾いをしました。ケニアではごみをごみ箱に捨てるという習慣がありません。カンゲミヘルスセンターも、至るところにごみが散乱しています。CHV を管理するヒルダさんと栄養士のシコさんが毎日、定期清掃を続けています。

シコさんです。

ヒルダさん。２人とも真剣です。

この日は CHV リーダーのキャサリンさんがお手伝いをしてくださいました。こうした地道な取り組みが、カンゲミ地区の皆さん、ウエストランズ保健省の皆さんに伝わり、清掃活動の大切さがカンゲミ地区中に広まるといいですね。カンゲミ地区を東京のようにぴかぴかにできるよう、職員一丸となって、来週も活動に励みます。

2018 年 05 月 21 日

KEKKAKU KANJA SAN ZERO WO MEZASHITE

Senshū, watashitachi ha, kekkaku kanja san ga chiryō wo kichinto ukete iruka kakunin wo okonaimashita.
Nazenara, kekkaku de nakunaru kanja san wo zero ni shitaikara desu. Ichiren no katsudo wo tsuujite, watashitachi ha kekkaku yokushi niha eiyoukaizen ga hitsuyoudearu to saikakunin shimashita.
Kongo sū-kagetsu ha, watashitachi ha korera no mondai ni shōten wo ate, kanja san no hōmon to eiyo shidou no tettei wo okonaitai to omotteimasu. Mata, CHV no katsudou joukyou wo check suru koto mo juuyou desu.
Kangemi chiku ha, HIV/AIDs mo shinkoku na mondai to natteimasu. Sonotame, kekkaku kanja san ha HIV/AIDs mo kansen shiteiru to hitobito ha gokai sigachidesu. Watashitachi ha koushita gokai wo toku hituyou ga arimasu.
Mazushī eiyō mo kanja san no kaifuku ni eikyō wo oyoboshite imasu.
Ryōkōde baransu no toreta tabemono ga areba, kanja san ha hayaku kaifuku shimasu.
Watashitachi ha, kekkaku de nakunaru kanja san wo zero ni surutame, yori ōkina senryaku wo tate, CHV no minasan to tomoni katsudo wo jisshi shite ikitaidesu.

2018 年 05 月 22 日

幼児の栄養　訪問調査

日本リザルツはケニア・ナイロビのスラム街、カンゲミ地区で結核抑止プロジェクトを実施しています。結核予防のために子供達の栄養改善は大変重要です。今日は、ケニア人スタッフの栄養士シコさんと、子供がいる世帯の訪問と、栄養調査を行いました。最初は幼稚園に伺い、園児達の栄養に関して調査を行いました。
子供達が正常に発育しているかどうかは、腕の太さを測定します。

つづいて、幼児を育てている家庭へ伺い、調査を行います。

シコさんは栄養士の経験を活かし、子供達の栄養状態や発育状況をもとに、お母さん方へどのような食事を提供したらよいのか、アドバイスをしていきました。

カンゲミ地区での折り鶴配り

本日は、カンゲミ地区に住む結核患者さん達のために、ケニア事業のスタッフ達で鶴を折り、配りました。日本リザルツは、2016 年から 3 年間ケニアで行われている「コミュニティ主導の結核予防・啓発活動事業」を通して、結核患者のゼロを目指しています。

日本において鶴は、人々の健康や平和の象徴として、人から人へとプレゼントされており、こちらカンゲミ地区でも、結核患者さんの健康回復を祈りながら作成し、プレゼントしています。鶴を貰った患者さんは笑顔になり、鶴に込められたメッセージ性をケニア人スタッフから聞いていました。そして、ケニア人スタッフが患者さん達に、鶴が大空へ羽ばたくジェスチャーを表現し、彼らの健康を願っていました。私達は、カンゲミ地区に沢山の鶴が舞い、結核で亡くなる患者さんがゼロになるように、頑張っていきます。

2018 年 05 月 23 日

【速報】河野外相　G20外相会合で「国際連帯税」を提案！！

現地21日、アルゼンチンのブエノスアイレスで開催されたG20外相会合で、河野外務大臣は国際連帯税を提案しました。以下は、マスコミ報道で、その下に外務省の報道があります。日本でも本格的に国際連帯税を

導入していくために大臣ともどもがんばっていきましょう！

【毎日新聞】河野外相　G20に「国際連帯税」提案
アルゼンチンのブエノスアイレスで開催された主要20カ国・地域（G20）外相会合で、来年の議長国、日本の河野太郎外相は21日、国連が掲げる持続可能な開発目標（SDGs）の達成に必要な資金を確保するため、人や企業のグローバルな活動に課税する「国際連帯税」を提案した。今年の議長国アルゼンチン政府は11月の首脳会議のテーマに、…以下、省略。

【共同通信】G20に「国際連帯税」提案　持続可能な開発目標の資金確保で
【ブエノスアイレス共同】アルゼンチンのブエノスアイレスで開催された20カ国・地域（G20）外相会合で、来年の議長国、日本の河野太郎外相は21日、国連が掲げる持続可能な開発目標（SDGs）の達成に必要な資金を確保するため、人や企業のグローバルな活動に課税する「国際連帯税」を提案した。今年の議長国アルゼンチン政府は11月の首脳会議のテーマに、公正で持続可能な開発を掲げている。SDGsなど「公正な開発」は、引き続きG20が取り組む重要な課題となりそうだ。SDGsは貧困や飢餓の撲滅から教育の確保、インフラ整備など幅広い分野で野心的な目標を掲げる。

外務省の報道によれば、外相会合では「G20の貢献，期待及び性質（ワーキングディナー）」、「マルチラテラリズムとグローバルガバナンス（第1セッション）」、及び「公正で持続可能な開発のための行動（第2セッション）」の議題のもと議論が行われたとのことですが、河野外務大臣は第2セッションで、次のように述べたとのことです。

【外務省】G20ブエノスアイレス外相会合
「河野大臣からは，会議の締めくくりに、G20では、持続可能な未来の創出に向けた方策につき議論すべきである旨強調した上で、高齢化問題解決のための鍵となる要素は革新及び開放性である、公平な社会のためには民主主義を伴った開発が必要、SDGs 達成のためには金融取引税を含む国際連帯税の活用も一案である、インフラについては開放性や平和利用を含む質が極めて重要である等の点についても指摘した。また、G20において，経済だけでは解決できない問題等についても議論することは重要である旨強調した。…以下、省略」

2018 年 05 月 24 日

スナノミ靴寄付

本日、株式会社電通法務マネジメント局 CSR 推進部の木下浩二部長より靴5足の寄付をいただきました。どうもありがとうございました。木下様には以前も靴のご寄付を頂き、又エコバックも沢山作って頂きました。スナノミ症に苦しむ子供たちが住むエスンバ村に赴きバックを子供たちに渡した様子はその時のブログに記されています。

日本の結核事情

今週に入って以下の二つの記事が出ました。

「学校で感染？男女 10 人が結核、3 人が発症　神戸」

「名古屋市役所、庁内で結核の集団感染」

1 年間に結核と診断された新規患者が人口 10 万人当たりで 10 人以下の国は「低まん延国」（例えば米国は 5 人）と呼ばれています。当然日本も「低まん延国」と日本人は考えると思うのですが（私も日本リザルツにくるまではそう思っていました）実は「中まん延国」です。厚生労働省の集計では平成 28 年度の新規患者は、全国 1 万 7625 人で人口 10 万人あたり 13.9 人という結果が出ています。政府は 2020 年のオリンピック年までには「低まん延国」入りを目指しています。明治時代以降「亡国病」と呼ばれていた結核も抗結核薬の研究開発、患者の発見・治療・管理、予防接種、及びサーベイランスの徹底が生活水準の向上による発病リスクの低下と重なり、減少してきていました。しかし、最近になり減少率が下がっているとのことです。日本には、結核抑止に向けて培ってきた多くの知見があります。その知見を日本国内はもちろんのこと、世界の結核根絶に活かせるよう、更なる努力が望まれます。

2018 年 05 月 25 日

世界栄養報告について（その1）

国際栄養問題を理解するには、「世界栄養報告（Global Nutrition Report）」を参照するのが最適です。第 1 回目の世界栄養報告は、2014 年 11 月に、FAO と WHO が主催してローマで行われた「第 2 回国際栄養会議」で発表されました。以後、毎年公表され、2017 年版が昨年末（11 月）に公表されています。それに呼応して日本語版も、2014、2015、2016 年版が発刊されています。

最新の 2017 年版は、過去 4 年間の取り組みの達成度はどうなのかという総合評価の視点と同時に、2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」を中核とする「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の栄養分野における新たな取り組みの推進について記載されています。2017 版は、SDGs を通して栄養を変革する（Transforming nutrition through the SDGs）、というコンセプトを前面に出して展開されています。栄養という枠組み内の個別分野に集中した書きぶりから、SDGs 色がかなり濃く反映された分析となっています。

詳しくは、直接、本体を参照いただくこととして、第1章は、栄養不良(Malnutrition)の負荷に直面する世界の国々の数のうち公表データを有する世界 140 か国について、円グラフ化して分りやすい説明をしています。発育阻害（STUNTING）の国の数は全体で 72 カ国、貧血（ANAEMIA）の国の数は 125 カ国、肥満(OVERWEIGHT)の国の数は 95 カ国あります。140 か国の中で、単独の問題を抱える国は、順に、1、6、10 カ国だけとなっています。栄養不良に関連して複数の問題を抱える国が約 9 割あるということになります。また、人口でみると、世界全体では 3 人に1人が栄養不良だということです。

逆に言えば、栄養不良の問題を改善することは、子ども、お母さん含めた個々の人々の健康達成だけでなく、企業の労働力の改善による生産性向上、経済の活性化など、それらに関わる全ての関係者（ステークホルダー）に総合的に良い影響がもたらされます。栄養改善の潜在性を最大限活用し成功を得るためには、全てのステークホルダーの協調行動と整合性が必要と思います。

しかし、これらが一定期間に達成できないのはさまざまな理由があります。必要データの欠落や情報・制度の不備、予算の不足、担当者の不足などが挙げられます。また、開発途上国問題、気候変動等の地球規模課題や難民問題等一朝一夕に解決困難な問題もあります。いずれも関係者の協調行動により解決は不可能ではないと考えます。これらは、各年の報告書で詳しく分析していきたいと思います。
また、今回の報告書は、現状の対応とその進捗度合いはどうなのか、そして、当該国、ドナー、国連機関、企業、市民社会の対応状況と今後の方向性のあり方を厳格に問いかけています。特に、企業、制度関連の解説文書に関しては、これまで食品産業界に身をおいていた者として、「目から鱗」でした。報告書を読んでいて、企業はそれを実行しないのか、という焦燥感、無力感を感じました。企業努力で無理であれば政府などが代わってサポートすれば何とかならないか、とも考えたりもしました。
世界の動きを眺めると、2013 年のロンドンで「Nutrition 4 Growth」と呼ばれる栄養に関するサミット、その後の、リオ、ミラノにおける栄養サミットがあり、2020 年には日本開催が予定されています。それまでの国際機関に加え、新たなグローバルレベルの援軍が大いに力になると思います。
我が国は、戦後、各種の健康問題を克服し、世界長寿国になりました。その実績と知見・経験を、2020 年の栄養サミットでは世界の人々に向けて発信し、世界の栄養改善に向けた協働行動が今こそ不可欠であることを是非とも呼び掛けていただきたいと思います。我々市民社会も、企業、業界、栄養等の学界、医療含めた全ての関係者と、互いに手に手を取って取り組んで行ける環境が整備できるよう模索しています。現在、当事務所では、2017 年版世界栄養報告の日本語訳を整備しているところです。詳しい情報を一刻も早く提供できればと思います。

2018 年 05 月 27 日

どーらのケニア珍道中

最近、霞が関が静かだ…そう思っているそこのあなた！そうなんです。どーらこと、日本リザルツの代表白須は、5 月 22 日から 28 日までケニアを訪問しています。今回の旅の目的は以下の通りです。

1. 日本リザルツがケニアで行っている結核抑止プロジェクトに関して、ウエストランズ州の保健省などと打ち合わせ
2. 日本リザルツケニア事務所のスタッフとの意見交換・面談
3. 結核検査所の視察
4. GGG+フォーラムケニア版の開催に際する打ち合わせ

本日も土日返上で、朝から結核検査所の工事状況を確認し、今はウエストランズ州保健省との打ち合わせの準備をしております。ミーティング中、ケニア事務所スタッフのアブタさんから、こんな懐かしい写真が。
昨年の運動靴輸送の際、まだ日本リザルツのドライバーだったアブタさんが撮影したどーらの写真です。なんと、本日全く同じ格好をしています！今や、アブタさんは現地事務所の統括として、本日も朝からお仕事に励んでくださっています。数々の課題がありますが、運動靴輸送の時と同様、職員一致団結して、問題を解決できるよう頑張ります。

勉強

昨日 5/26(土)、一般社団法人グラミン日本準備機構主催の「グラミン日本立上げに向けた全国キャンペーン～春のワークショップ」とグローバル連帯税フォーラム主催の「国連 SDGs 採択から 3 年：世界をつづく社会に向かわせるには？　～2019 年 G20 大阪サミットと市民社会の果たす役割～」に行ってきました。グラミン日本準備機構のワークショップでは、グラミン銀行がバングラデシュやアメリカで非常に成功していることや、今年 9 月の日本での設立を目指して精力的に活動をされている様子が紹介され、今後に期待を抱かせる内容でした。一方、グローバル連帯税フォーラムのセミナーでは、以下の課題が挙げられていました。

-1970 年代に出された「成長の限界」で予想された人口や産業の推移をほぼそのまま人類がたどっていること
-予想では 2030 年から経済の崩壊に伴い人口が減少に向かうという恐ろしく困難な状況に直面するということ
-日本政府の SDGs に対する姿勢が市民社会を無視し、これまでの政策を SDGs に分類する程度で新たなことは行わないという方向へ向かっていること
-科学技術革命により格差が拡大する可能性や、経済社会のあり方をも変えてしまう可能性があること

上記の理由が、SDGs 達成を難しくする要因になるというお話があり、問題の大きさと複雑さを思い知らされました。

グラミンワークショップ

連帯税フォーラムセミナー

2018 年 05 月 29 日

靴募集に関する注意喚起

運動靴の輸送プロジェクトへの皆様のご協力に感謝いたします。さて、本日はそのプロジェクトに関する注意喚起です。今回、靴の寄付に関してお問い合わせをいただいた方から、「ケニアに送る靴を集めているので、お宅で要らなくなった靴を点検しに訪問したい」という内容の電話が個人のお宅にかかってきたという情報をいただきました。日本リザルツから個人のお宅に電話をして、靴の寄付のお願いや訪問のお話をすることは一切ありません。このような電話は悪質業者等によるものという可能性も考えられますので、十分にご注意いただきますようお願いします。その電話が誰により、どのような意図を持ってかけられたものかは分かりませんが、人の善意を悪用するようなことが起きないよう祈るばかりです。